

千葉市企業動向調査（第15回/2025年度第1回）の概要

1. 調査目的

千葉市内の企業や事業所の業績の推移やビジネスの方向性、課題などを把握することにより、効果的な支援策等を企画する際の一助とするため、アンケート調査及びヒアリング調査を一連の「企業動向調査」として実施する。

2. 調査対象

千葉市に本社を置く企業とする。調査対象数は1,000件とし、総務省・経済産業省「令和3年経済センサス活動調査」における千葉市内の企業数の業種別及び規模別の割合に合致するよう、総務省の事業所母集団データベースより業種・規模毎に無作為抽出した。

※第11回調査から、企業の抽出元のデータベースや企業属性、抽出方法、企業数を変更した。

3. 調査時期

2025年5月16日（金）～6月6日（金）

4. 調査方法・件数

先の方法で抽出された企業に調査依頼状を郵送し、WEBまたは同封した紙の調査票での回答を依頼した。

5. 回収件数

配布件数1,000件、有効配布件数955件

回収数493件（郵送280件・WEB213件）（回収率49.3%・有効回収率51.6%）

6. 調査機関

株式会社東京商工リサーチ 千葉支店

7. 本資料を読むに当たっての注意点

○BSI（Business Survey Index）とは、前期と比較した調査時点における景気の「方向性」を示した景況判断指数であり、景気の足元及び先行きを捉えることができる指数（業況等に対する判断において、「良い（増加）」と回答した割合から「悪い（減少）」と回答した割合を引いた指数）である。

○DI（Diffusion Index）とは、調査時点における景気の「現状（水準）」を示した景況判断指数であり、足元の景気の動向を捉えることができる指数（業況等に対する判断において、「良い（増加）」と回答した割合から「悪い（減少）」と回答した割合を引いた指数）である。

○BSI、DIの前期、今期、来期、来々期の各期間は以下のとおり。

前期:2024年10～12月期 今期:2025年1～3月期 来期:2025年4～6月期 来々期:2025年7～9月期

○従業員規模別の区分については、中小企業基本法の定義において卸売業、サービス業、小売業で小規模事業者とされる「5人以下」、製造業その他で小規模事業者とされる「6人～20人」、中小企業である「21人以上」の3つの区分としている。

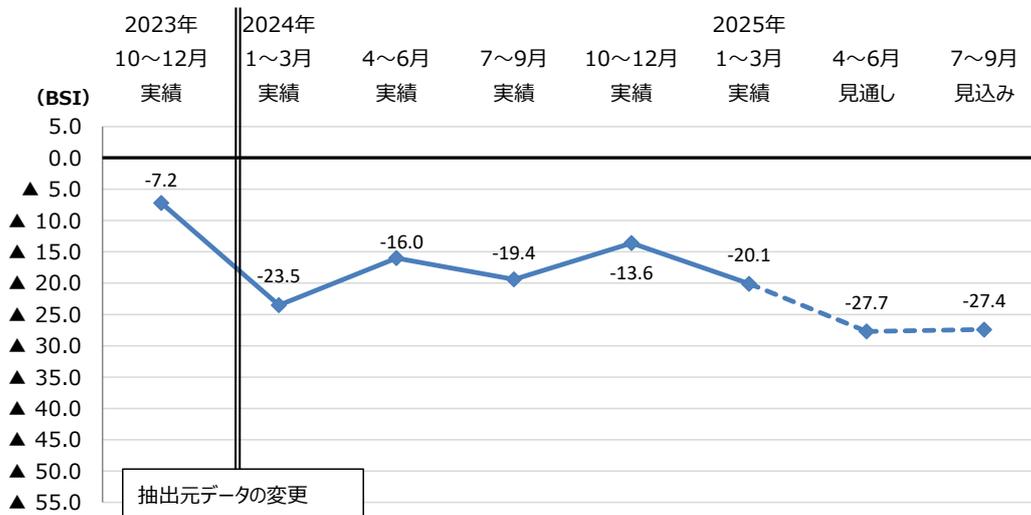
○BSIの天気マークの基準は以下の図のとおり。

 20.0 以上  19.9～6.0  5.9～0.0  ▲0.1～▲5.9  ▲6.0～▲19.9  ▲20.0 以下

■ 千葉市内企業の景況

1. 業況判断 業況判断 BSI は、▲20.1 と前期▲13.6 から 6.5 ポイント低下した
来期は今期から 7.6 ポイント低下する見通し

【業況判断 BSI】（良い%-悪い%）



【従業員規模別、業種別動向】

		2024年10~12月 前期実績	2025年1~3月 今期実績	2025年4~6月 来期見通し	2025年7~9月 来々期見込み
規模別	5人以下	▲ 25.3	▲ 29.1	▲ 33.0	▲ 34.6
	6人~20人	3.0	▲ 15.1	▲ 21.4	▲ 21.6
	21人以上	10.5	13.7	▲ 12.3	▲ 5.5
業種別	製造業	▲ 16.7	▲ 15.1	▲ 21.9	▲ 27.3
	非製造業	▲ 13.4	▲ 20.0	▲ 27.5	▲ 27.0
	建設業	▲ 4.4	▲ 8.0	▲ 22.5	▲ 18.4
	運輸・通信業	18.2	▲ 29.4	▲ 25.0	▲ 6.7
	卸・小売業	▲ 16.4	▲ 33.6	▲ 47.6	▲ 45.4
	飲食・宿泊業	▲ 41.2	▲ 26.6	▲ 46.7	▲ 40.0
	サービス業	▲ 14.5	▲ 22.1	▲ 24.0	▲ 25.2
	その他非製造業	▲ 17.0	▲ 14.2	▲ 15.0	▲ 20.5

※前期から今期、今期から来期にかけて BSI（良い%-悪い%）で 10 ポイント以上差がある業種については、矢印を表記している。

2. BSI・DI 推移 売上 BSI は、▲13.9 と前期▲8.1 から 5.8 ポイント低下した
 経常損益 BSI は、▲19.5 と前期▲12.4 から 7.1 ポイント低下した

項目	前期から今期の推移と先行きの見通し
①売上 BSI (増加%—減少%)	【今 期】 ▲13.9 と前期から 5.8 ポイント低下 (減少幅がやや拡大した) 【先行き】 来期は▲19.4、来々期は▲19.7 と低下する見通し
②経常損益 BSI (好転%—悪化%)	【今 期】 ▲19.5 と 7.1 ポイント低下 (低調感が大きく強まった) 【先行き】 来期は▲22.1、来々期は▲26.2 と低下する見通し
③資金繰り BSI (好転%—悪化%)	【今 期】 ▲16.3 と 7.2 ポイント低下 (窮屈感が大きく強まった) 【先行き】 来期は▲14.7、来々期は▲16.4 と上昇する見通し
④人材過不足 DI (過剰%—不足%)	【今 期】 ▲26.0 と 6.7 ポイント上昇 (不足感が大きく弱まった) 【先行き】 来期は▲26.1、来々期は▲25.9 と低下する見通し
⑤生産設備 DI (過剰%—不足%)	【今 期】 ▲6.1 と 3.2 ポイント低下 (不足感がやや強まった) 【先行き】 来期は▲7.9、来々期は▲6.8 と低下する見通し
⑥営業用設備 DI (過剰%—不足%)	【今 期】 ▲5.6 と 0.3 ポイント低下 (同様に推移した) 【先行き】 来期は▲5.4、来々期は▲5.5 と同様に推移する見通し
⑦国内需要 BSI (拡大%—縮小%)	【今 期】 ▲17.8 と 9.7 ポイント低下 (減少幅が大きく拡大した) 【先行き】 来期は▲20.8、来々期は▲23.1 と低下する見通し
⑧仕入価格 BSI (上昇%—低下%)	【今 期】 47.3 と 4.5 ポイント低下 (上昇傾向がやや弱まった) 【先行き】 来期は 44.7、来々期は 43.7 と低下する見通し
⑨販売価格 BSI (上昇%—低下%)	【今 期】 19.0 と 1.3 ポイント上昇 (同様に推移した) 【先行き】 来期は 17.7、来々期は 16.6 と低下する見通し
⑩人材採用 DI (積極的%—消極的%)	【今 期】 ▲28.2 と 5.3 ポイント低下 (消極性がやや強まった) 【先行き】 来期は▲25.8、来々期は▲24.5 と上昇する見通し

【主要項目 BSI の天気図】

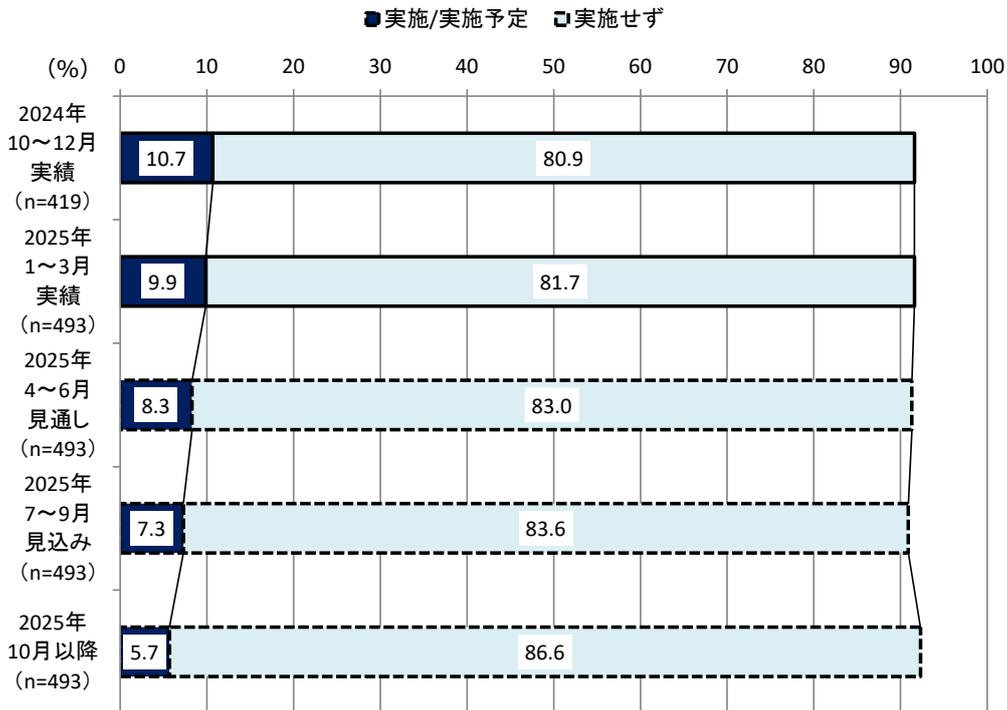
	2024年10～12月 前期実績	2025年1～3月 今期実績	2025年4～6月 来期見通し	2025年7～9月 来々期見込み
売上	 ▲ 8.1	 ▲ 13.9	 ▲ 19.4	 ▲ 19.7
経常損益	 ▲ 12.4	 ▲ 19.5	 ▲ 22.1	 ▲ 26.2
資金繰り	 ▲ 9.1	 ▲ 16.3	 ▲ 14.7	 ▲ 16.4

※「人材過不足」「生産設備」「営業用設備」はポイントが0に近い方がよい項目であり、天気図として記載することが不
 適当であるため作図しない。

※「国内需要」「仕入価格」「販売価格」「人材採用」は主要項目ではないため、作図しない。

3. 設備投資に関する現況 「実施」と回答した企業は、9.9%と0.8ポイント減少した
2025年4月～6月以降は5～8%台で推移する見通し

【設備投資】



4. 付帯調査結果のまとめ

- 米国による関税措置の影響について「大いにプラス」と「ややプラス」をあわせた『プラス』とする企業は1.6%であるのに対し、「ややマイナス」と「大いにマイナス」をあわせた『マイナス』とする企業は16.8%であった。また、米国の関税措置への対応として、27.6%の企業は「今後の影響を注視する」と回答している。
- 2024年以降の賃上げの実施有無について「賃上げを実施した」とする企業は47.7%であるのに対し、「賃上げを実施していない」と「賃金を引き下げた」をあわせた『賃上げを実施していない、または引き下げた』とする企業は52.2%であった。なお、賃上げを実施していない、または引き下げた企業では、その理由を「売り上げが確保できていないため」「コスト増加のため」などと回答している。
- 人材確保の不足感について「かなり不足」と「やや不足」をあわせた『不足』とする企業は40.2%、「採用活動の結果、特に不足感はない」と「もともと不足していない」をあわせた『適正』とする企業は57.6%、「やや過剰」と「かなり過剰」をあわせた『過剰』とする企業は2.1%であった。不足している企業では人材不足を軽減させるための方策として「業務効率化を進める」「社内人材のリスキリング」「アウトソーシング」などと回答している。

千葉市企業動向調査（第15回/2025年度第1回）の概要

発行: 千葉市経済農政局経済部経済企画課
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号
電話: 043-245-5359 FAX: 043-245-5558

本報告書の詳細は、
市ホームページにて
ご覧いただけます。

